

つなぐこと・解くこと (ジェイコブ・ブラッシュ)

間違った武器

フォークを手にして、どのくらいスープを飲むことができますか？ ほとんど飲めないでしょう。試してもかまいませんが、役に立たないでしょう。フォークをおろし、スプーンを手にし——正しい道具を用いてください。そうすればスープを飲むことができます。

今日、靈的戦いが強調されています。主は私たちが召命を成し遂げることができるように、多くの武器・戦略、戦術・道具を与えて下さっています。しかし今日、肉と悪霊とこの世に関する問題を取り扱うために、間違った武器を使用している人々を見かけます。フォークでスープを飲み始めて数分たてば考え直すように、その人々は、何かがおかしい——これは役に立っていない、自分は何か間違っているに違いない——と感ずることでしょう。

教会は多くの領域において、つなぐこと・解くことの聖書的教えを、本来意図されていない事柄を取り扱うための道具として使おうとしてきました。人々は間違った道具を用いてきました。自分たちができると考え、望んでいることを、決して達成することのできない道具です。つなぐこと・解くことについては、確かに聖書的な教えがあります。それは、本来意図された目的に即して用いられるなら、適切な教えであり、武器であり戦略であります。けれども主権に対してはどうでしょうか？ 天にある力に対しては？ 罪に対しては？ 高位にいる悪霊とこの世の悪に対してはどうですか？ そのようなものを取り扱うために備えられた武器ではないのです！ 私たちはずっとフォークでスープを飲もうとしてきたのです！

カリスマ派の失敗

カリスマ派リニューアルは 30 年の歴史が過ぎた今、社会の道徳的な崩壊を食い止めることに失敗しています。かえって、この 30 年間の西洋社会の靈的意識を見る時、ニューエイジ運動がキリスト教にとって代わっています。カリスマ運動はリバイバルをもたらすことに失敗しました。

現在は 30 年前のいわゆるカリスマ・リニューアル以前よりも、より多くの犯罪、離婚、同性愛、子供の虐待、薬物乱用が見受けられ、何もかもがより悪化し、邪悪になっています。

教会は 30 年前よりもはるかに弱々しく、はるかに惨めです。それなのに依然として、フォークでスープを飲もうとしている現状が見受けられます。私たちは依然として、同じ愚かな道具を間違っ使用しているのです。まともな知性の持ち主なら、そこに問題があると判るでしょう。つなぐこと・解くことに問題があるのではありません。道具自体に欠陥があるのではないのです。

霊に倒される？

そのころ、私、ダニエルは、三週間の喪に服していた。満三週間、私は、ごちそうも食べず、肉もぶどう酒も口にせず、また身に油も塗らなかった。(ダニエル書 10:2, 3)

ダニエルは 3 週間断食していました。御使いが訪れた時、ダニエルは恐れて地に倒れました。

私はそのことばの声を聞いた。そのことばの声を聞いたとき、私は意識を失って、うつぶせに地に倒れた。(ダニエル書 10:9)

ダニエルは、トロントで見たように、ヒステリックに床を転げまわったのではありませんでした。彼らが言うところの「霊に倒される」現象とは全く関係ありませんでした。ダニエルもヨハネも畏れを感じたのです。イエス様を逮捕しに来た人々は後ろに倒れましたが(ヨハネ 18:4~6)、他の場合はすべて前に倒れました。

御使いは言いました。「神に愛されている人ダニエルよ。私が今から語ることばをよくわきまえよ。そこに立ち上がれ。私は今、あなたに遣わされたのだ。」彼が、このことばを私に語ったとき、私は震えながら立ち上がった。彼は私に言った。「恐れるな。ダニエル。あなたが心を定めて悟ろうとし、あなたの神の前でへりくだろうと決めたその初めの日から、あなたのことばは聞かれているからだ。私が来たのは、あなたのことばのためだ。ペルシヤの国の君が二十一日間、私に向かって立っていたが、そこに、第一の君のひとり、ミカエルが私を助けに来てくれたので、私は彼をペルシヤの王たちのところに残しておき、(ダニエル 10:11~13)

聖書はいつでも、天における霊的戦いと地上に現れる事象とを関連付けています。ゼカリヤの見た幻では、大祭司が主の御使いの前に立っており、サタンが非難しようとして王座の前に立っていました（ゼカリヤ 3：1）。ヨブの場合も同様でした（ヨブ記 1：9～11）。天で起こることは何であっても、地上で起こる事がらに反映されます。

今やサタンは地に投げ落とされました。黙示録には、天で起こっている戦いと同時に地上で起こっている事柄が記録されています。霊的戦いとは、いつもそのように起こるのです。

聖書には「支配権」という言葉が使われています。それは地域を支配する霊のことではありませんが、そう言う意味で使っても良いでしょう。ダニエルは、現代のイランを覆っている悪の力——「ペルシヤの君」を見ました。ゲラサ人の地で、イエス様が悪霊に支配された人から悪霊どもを追い出された時、悪霊どもは「私たちをこの地域から追い出さないでください」と言いました（マルコ 5：1、ルカ 8：26）。これらの霊は地域を支配する霊で、特定の地域に支配権を持っています。それには聖書的根拠がありますが、私たちはそれらの霊をどの様に取り扱えばよいのでしょうか？まず初めに、どのように取り扱ってはいけないのかを理解しましょう。

非聖書的な考え方

ダニエルが見たのと同じ霊的力が、現代のイランの背後で働いていることは間違いありません。ダニエルは助けを受ける前、3週間の断食をして祈りました。今日のクリスチャンは、C・ピーター・ワグナーの本を読んで、その同じ霊に対し主権を握ろうと決心します。そして3秒で問題が片付くと信じるのです。それほど簡単なことだと考えているのです。

いいえ、そんなに簡単なことではありません。悪霊は強力です。より強力な霊もいるので、イエス様が言われました。

「ただし、この種のは、祈りと断食によらなければ出て行きません。（マタイ 17：21）」

今日の教会は、非聖書的な考え方という重荷を負って苦勞しています。ですから、何が聖書的であるかを見つけ出す前に、何が聖書的でないかを見つけましょう。つなぐこと・解くことについて、聖書にどのように書いてあるのかを見つけ出しましょう。

アテネでのパウロ

使徒の働き 17 章に、アテネでのパウロの物語が記されています。アテネはヨーロッパにおける異教の中心地でした。ローマ帝国はアテネの文化・宗教的考え方・哲学に注目しました。異教の宗教はバビロンのニムロデから始まり、ペルガモを通してギリシャ・ローマ文化に取り入れられ、そこから西洋文化に引き継がれていきました。

さて、アテネでふたりを待っていたパウロは、町が偶像でいっぱいなのを見て、心に憤りを感じた（使徒 17：16）。

彼は悪霊の宮と礼拝所を見ていました。

そこでパウロは、会堂ではユダヤ人や神を敬う人たちと論じ、広場では毎日そこに居合わせた人たちと論じた（使徒 17：17）。

「そこに居合わせた人たち」には、ゼウス、アポロ、アルテミス、アシュタロテ、ヘルメスなどの信奉者が含まれています。これらの人々は皆、悪霊の影響を受けていました。パウロはどうしたのでしょうか？ ジョン・ドーソンやピーター・ワグナーから教わった決まり文句を唱えたのでしょうか？「イエスの御名の權威によってお前を縛る、イエスの御名の權威によってあなたを解放する」と言ったのでしょうか？「解放のミニストリー」に携わる人々の中には、体面を取り繕い、自分の繁栄を確保するために、この決まり文句を使う人がいます。自分の「ミニストリー」と金儲けのために、その方法は役に立たないと知りながら、その事実を目をつぶっているのです。

それは、「支配主義神学」、「勝利主義神学」、「王国は今（キングダム・ナウ）神学」として知られている惑わしです。イエス・キリストが戻って来て王国を建て上げる前に、世界をキリストのために勝ち取るという考え方は偽りのものです。

わたしの国はこの世のものではありません

私たちが御言葉の原則と聖徒たちの祈りを用いて、墮落した世界に道徳的影響力を行使し、イエスの王国を建て上げることができるという考え方は馬鹿げています。神の律法を用いて社会を再建しようとした時はいつでも、教会に霊的・神学的な死をもたらし、社会・政治・文化全般に衰退をもたらしました（ヨハネ 18：36）。2 種類の両極端の超

カリスマ主義があります。一方は、偽りによってでもこの世界を支配しようとするもので、もう一方は、恐れあまり塹壕を掘ってうずくまり、自分だけを守ろうとするものです。間違った教えのほとんどは、この2つの柱を中心にして作られました。

箱舟の扉が閉められる時があります（創世記 7：16）。そして私たちには、残された人々を力づける事しかできないという時代が来ます（黙示録 3：2）。しかしこの終末の時代においては、私たちは守りに入るべきではありません。反対に、贖いが近づいていることを喜び、上を見上げることが求められているのです（ルカ 21：28）。終わりが来る前に、まず御国の福音がすべての国々に宣べ伝えられなければなりません（マタイ 24：14）。

宣教：第1の武器

パウロは悪霊に覆われたアテネで福音を語りました。

私たちの社会で暗闇の力を無効にする第1の武器は、福音宣教です。私たちは福音を説き聞かせ、真理を証言すべきです。マーチ・フォー・ジーザスのリーダーたちは、行進することで暗闇の力を抑えると考えています。しかし、マーチ・フォー・ジーザスをリードしているのは偽りの教師たちです。彼らは「共同の贖い主」「共同の救い主」を信じています。彼らは死人に祈ります。イエスの血潮が私たちをすべての罪から清めたにもかかわらず、罪のために煉獄に行くと考えています。ロジャー・フォスターは、永遠の地獄があるかどうかは分からないと教えています。

アメリカ合衆国では暴力・犯罪・ポルノ番組が氾濫し、中絶が合法化されています。キリスト教聖職者は処女懐妊を信じないと公言し、ホモとレズビアンへの聖職者の任命を推進しています。

イスラム教は、社会の道徳を回復し、犯罪に終止符を打つために、神の計画書を持っていると主張しています。そして、ユダヤ教とキリスト教は道徳的・霊的に破綻していると断言しています。イスラム教は、キリスト教が失敗したことを自分たちが達成できると宣言しているのです。

神様が私たちの国で素晴らしいことをなさっているのに、笑いながら床を転げ回っていて良いのだと考えている人々がいます。それは、ロドニー・ハワード・ブラウンとジ

ヨン・キルパトリックに見られるこの世の思考方法です。しかし、彼らの神はいったいどんな神様なのでしょうか。

またこのように主張する人々もいます。「縛りつけなさい。解放しなさい。」「支配を語りなさい。」「力強く行進し、前進しなさい。」

どのように主張してもかまいませんが、実のところ、力強く前進しているのはニューエイジやイスラム教、同性愛、犯罪、魔術、民族宗教なのであり、教会ではありません。私たちに必要なのは、マーチ・フォー・リペンタンス（悔い改め）と真の救いです。キリスト・イエスの血がすべての罪から贖います。十字架の力にあって前進しましょう。悔い改めて救われてください。正しい神学無くして、栄光の賛歌はありません。

強い人を縛る

イエスは彼らの思いを知ってこう言われた。「どんな国でも、内輪もめして争えば荒れすたれ、どんな町でも家でも、内輪もめして争えば立ち行きません。もし、サタンがサタンを追い出していて仲間割れしたのだったら、どうしてその国は立ち行くでしょう。また、もしわたしがベルゼブルによって悪霊どもを追い出しているのなら、あなたがたの子らはだれによって追い出すのですか。だから、あなたがたの子らが、あなたがたをさばく人となるのです。しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。強い人の家に入って家財を奪い取ろうとするなら、まずその人を縛ってしまわないで、どうしてそのようなことができますでしょうか。そのようにして初めて、その家を略奪することもできるのです（マタイ 12：25～29）。

文脈からはずれた御言葉

マタイ 4 章 1～11 節に、サタンがキリストを誘惑した場面が記されています。サタンは御言葉を文脈からねじ曲げて使いました。創世記 3 章 1～7 節でサタンはエバに対して同じように行い、疑いを引き起こしました。「神はそう言ったのですか？」サタンはエバにもアダムにもそのように行い、イエス様にも同じことを試みたのです。イエス様はどのように応答されたのでしょうか？ サタンとイエス様の議論は全て申命記から引

用されています。サタンは申命記を文脈からはずして引用し、イエス様は文脈に即して引用されました。「こう書かれています。」「そうだ。しかし、こうも書いてある。」

サタンは、マタイ 12 章 29 節を文脈から切り離して使おうとするクリスチャンを見て笑っています。では、マタイ 12 章 29 節の「強い人を縛る」という表現は、文脈中でどのように使われているのでしょうか？この文脈でパリサイ人たちは、イエス様がサタンの力によって悪霊どもを追い出していると非難しています。文脈はエクソシズム・悪霊追い出しです。これは、新約聖書において、聖霊を冒瀆する罪とはどんなことかをわかりやすく描写している箇所です。ただし、定義しているのではなく、実例を挙げて説明しているだけです。ここで宗教指導者たちは、権力の地位を保ち、自分の経済的・社会的特権を守るために、神から出たとわかっている働きをサタンのせいにししました。彼らは自分たちの地位を乱用し、故意に民衆を真理から反らせたのです。今日、宗教指導者たちが人々を真理から反らせているところでは、同じことが起こっています。例えば、デイヴ・ハントの『キリストにあるキリスト教』が真実を教える本であると知りながら「読んではいけない」と民衆に語るような時、このようなことが起こっています。

霊の見分け

本当に悪霊に付かれた人の場合は、先に悪霊を追い出すまで、救われることができません。新約聖書は本物の悪霊であるかどうかを見分け、断定することができます。霊の見分けを行使する時は、いつも聖書をガイドラインにしてください。

悪霊に付かれた人には理不尽な行動が伴います。自分を火の中に投げ込んだり、自分を傷つけたり、墓場で暮らしたり、超人的な力や超人的な知性を発揮したり、偽りの霊の賜物を発揮したりします。しるしと不思議が悪霊によって現れます。他の現れとしては、病理学的原因のない身体疾患（つまり医学的に原因のわからない病気）です。

Dr. クルト・コッホの書いた書物を読んでください。このテーマに関する良い本を読んでください。（訳注：Dr. Kurt Koch 1913~1987 ドイツの神学者、牧師、伝道者。オカルトの魅力と束縛からの解放、悪霊の働きと精神的病との見分け、クリスチャン・カウンセリング、鬼神学、終末の世界統一政府・世界統一宗教などについて、5大陸65カ国で講演し、解放・カウンセリングに携わった。著書多数。）悪霊に付かれた人の場合、その人の霊に悪霊が住んでいます。悪霊が追い出されるまで、聖霊が入ることができません。ただ証をただけでは、悪霊に付かれた人を解放することはできないのです。

イエスは岩

するとイエスは、彼に答えて言われた。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。

ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」そのとき、イエスは、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と弟子たちを戒められた（マタイ 16：17～20）。

この御言葉は、ペテロが岩であり、ペテロが初代法王であると言うローマカトリックの偽りの教えの基礎として利用されました。法王はかぎを持っているので、望むことは何でもできると主張しています。法王がつなぐものは何でもつながれ、法王が解くものは何でも解かれると。けれども「ペテロ」はギリシャ語で「小石」を意味します。「岩」はキリストです。

そこで、兄弟たち。私はあなたがたにぜひ次のことを知ってもらいたいのです。私たちの父祖たちはみな、雲の下におり、みな海を通過して行きました。そしてみな、雲と海とで、モーセにつくバプテスマを受け、みな同じ御霊の食べ物を食べ、みな同じ御霊の飲み物を飲みました。というのは、彼らについて来た御霊の岩から飲んだからです。その岩とはキリストです（Iコリント 10：1～4）。

教会時代の初期において、ペテロが岩であると言った教父は1人もいません。皆、キリストが岩であると言ったのです。

ガラテヤ人への手紙 2章 11節には、パウロがペテロの偽善に対し面と向かって反対した事実が記されています。何ですって？それは、パウロが法王を叱責したという意味ですか？そんな馬鹿げた話はないでしょう。エルサレムの最初の教会会議で司会をしたのは、使徒の働き 15章によると誰だったと記録されていますか？ペテロでしたか？いいえ、ヤコブでした。ヤコブが最初の会議を招集したのであり、ペテロではありませんでした。カトリックの教理には、何の聖書的証拠も歴史的証拠もありません。

もしペテロがローマの初代司教なら、ローマ人への書簡を書いたのがペテロではなく

てパウロだったのは、いったいどういうわけですか？ペテロの働きはユダヤ人を対象にしていました（ガラテヤ人への手紙2：7）。かぎを与えることは「法王の権威」とは何の関係もありません。馬鹿げた話です。

鍵を持っているのは誰か？

また、フィラデルフィヤにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく、その方がこう言われる。「わたしは、あなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。

見よ。サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しながら実はそうでなくて、うそを言っている者たちに、わたしはこうする。見よ。彼らをあなたの足もとに来てひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを知らせる。あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。わたしは、すぐに来る。あなたの冠をだれにも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていないさい。（黙示録3：7～11）

フィラデルフィア教会は、力はほとんど無いが、良い教会でした。世界的に有名な、金持ちで影響力のある人々——皆、より大きな力を追求しています——の運営する今日の大教会とは違いました。主イエス・キリストは、誰も閉じることの出来ない門を、フィラデルフィア教会の前に開いておきました。なぜなら、彼らにはほとんど力が無かったからです。そこには忠実なクリスチャンたちがいて、最も良い教会のひとつを形成していました。それは、崩壊した教会ではありませんでした。主は彼らに言われました。「あなたがたには力が無い。わたしはあなたがたのために門を開かなければならない。」イエス様がそれらの鍵を持っておられるのです。主は誰にもかぎを渡されませんでした。

それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。しかし彼は右手を私の上に置いてこう言われた。「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる

事を書きしるせ。わたしの右の手の中に見えた七つの星と、七つの金の燭台について、その秘められた意味を言えば、七つの星は七つの教会の御使いたち、七つの燭台は七つの教会である（黙示録1：17～20）。

「いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている（黙示録1：18）。」
イエス様が死とハデスのかぎを持っておられます。イエス様は、誰が地獄に行き、誰が行かないかを宣言する力を持っておられます。法王はかぎを持っていると主張しますが、そうではありません。キリスト・イエスだけがそのかぎを持っておられるのです。

わざわいだ。律法の専門家たち。おまえたちは知識のかぎを持ち去り、自分も入らず、入ろうとする人々をも妨げたのです（ルカ11：52）。

パリサイ人たちは、自分たちの政治的・経済的な権力基盤を作るために、御言葉の知識を誤用していました。彼らは、民衆に対して死と地獄の力をふるっていたのです。中世の法王や今日の超ペンテコステ派の人々のように。

反キリストの霊

反キリストの霊を持つ人とは、自分を神の立場に置く人のことです。今日の世界で最も危険な反キリストの霊のひとつは、カトリック教会ではなく、「王国は今（キングダム・ナウ）神学」です。

ギリシャ語の「反キリスト」と言う単語は「キリストに反対する」という意味ではなく、「代わる者」、つまりキリストの代理として振る舞う存在です。英語では、代理として行動する人物——誰かの代理——は「vicar・ヴィカー」と呼びます。キリストの真の代理は、いと高き神の霊、真理の御霊、慰め主です（ヨハネ14：15～17、16：7～11）。聖霊はイエス様の代理を務めます。もし誰かを聖霊の代わりに祭り上げ、「キリストの代理」と呼ぶなら、その人物は反キリスト、聖霊の偽物となります。

法王のタイトル「Vicar of Christ キリストの代理」をギリシャ語に翻訳すると、反キリストとなります。そのタイトルを付けた法王は誰でも「私は反キリストだ」と言っているようなものです。聖霊が本当のキリストの代理です。

死人に祈ること

しかしこのような御言葉の誤用は、単にカトリックに見られるだけではありません。アメリカ合衆国のアール・ポークは死人と交流しています。彼は言います。「私は聖書が魔術・降霊術・霊媒口寄せについてどのように教えているかは知っているが、偽物をたぐっていけば本物にたどり着けるだろう」注：ポークが始めたのは偽物からであり、本物からではありません。神の御言葉こそ真実なのですから、本物から始めましょう。神の御言葉に合致しないものは何であれ、偽物です。私たちは、本物は御言葉にあると知っているのです。（訳注：Earl Paulk 1927～2009 アトランタにあるペンテコステ派のメガチャーチ、チャペル・ヒル・カテドラルの牧師。民族平等思想のためにチャーチ・オブ・ゴッドから離脱し、初めて黒人を受け入れた白人牧師。後に同性愛者を受け入れ、自身の数々の性的スキャンダルが明るみになった。支配主義神学、信仰の言葉神学、再建主義運動を推進した。）

アール・ポーク、ケネス・コーブランド、ロドニー・ハワード・ブラウンのような人物は、本物を探そうとして偽物を使っています。彼らは「雲のような証人たち」に語るように、死人に語ります。その部分を文脈から取り出して、死人に語るができることと解釈するのです。それは神に忌み嫌われることです。カトリック教徒たちは、死んだ聖人や霊媒口寄せに語りかけます。サウル王が悪霊を呼び出して死人に語った（**Iサムエル 28：7～19**）ことは、忌み嫌われることでした。サウルはそのために裁かれて滅ぼされました。

アール・ポークが自分の亡くなった姉妹から啓示を受けたように、死人から啓示を受けたと主張する人々は、忌むべきことを行っているのです。ベニー・ヒンが、エイミー・サンプル・マクファーソンやキャサリン・クールマンの墓で、死体の骨から油注ぎを受け取った時、忌むべきことを行っていたのです。

唯一聖書のみ

世界のどんな偽りの宗教も言います。「聖書、と何か他の教本」「神の御言葉、と人間の作った教え」。イエス様は人間の作り出した物について何と言われましたか？イエス様はそれらを非難されました。必要なのは神の御言葉であって、他の何ものも必要ありません！パリサイ人たちは「人間の教えを、教えとして教え」たために、厳しく咎められました（**マタイ 15：9**）。サタンは教会を異教化する前にユダヤ化しようと試みまし

た。東方正教とカトリックは、まず初めにユダヤ化して会衆を戒律の下に引き戻し、それから何もかも異教化したのです。

アール・ポークは、神の御言葉をもって自分に語ったのは昔の預言者たちの声だった。だから神が自分に語ったことになるのだと主張します。このような偽教師たち・偽預言者たちは、自分に反対する者は反キリストであると言います。オーラル・ロバーツ、ジム・ベイカー、ケネス・コーブランド——彼らはイエス・キリストの代わりに自分も十字架で死ぬことができたと言っています——もし彼らの偽りの教えに反対するならば、そっちこそ反キリストの霊だ、と反論してくるのです。

彼らは、語っているのは自分ではなく神であると主張します。モーリス・セルロは、誰かが自分を見る時、その人はただの人間を見ているのではなく、イエス・キリストを見ているのだと言います。

キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています（Iヨハネ3：2）。あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです（コロサイ1：27）。

その通りです。でも「私たちはキリストですか？」いいえ。そのような主張をする者こそ反キリストの霊です。

そのような誤った主張はカトリックから始まりましたが、今日では超ペンテコステ派に見られます。多くの反キリストが存在します。自分自身をキリストの立場に置く者は誰でも、反キリストなのです。しかし、唯一の真のキリストの代理が存在します。それが聖霊です。そして唯一、真の権威の基盤があります。それが神の聖なる御言葉です。

このような宗教的律法主義者たちがしようとしているのは、神の御言葉の権威を自分のために使うことです。都合の良い教義を定めて、自分の社会的、経済的、政治的な権力基盤を固めようとするのです。ローマカトリックはいつもそのようにしてきました。

わざわざ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは人々から天の御国をさえぎっているのです。自分も入らず、入ろうとしている人々をも入れさせません。

そのように、おまえたちも外側は人に正しく見えても、内側は偽善と不法でいっぱいです（マタイ23：13, 28）。

ぶどう園の管理人

もう一つのたとえを聞きなさい。ひとりの、家の主人がいた。彼はぶどう園を造って、垣を巡らし、その中に酒ぶねを掘り、やぐらを建て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。

さて、収穫の 때가近づいたので、主人は自分の分を受け取ろうとして、農夫たちのところへしもべたちを遣わした。すると、農夫たちは、そのしもべたちをつかまえて、ひとり袋だたきにし、もうひよりは殺し、もうひよりは石で打った。そこでもう一度、前よりももっと多くの別のしもべたちを遣わしたが、やはり同じような扱いをした。

しかし、そのあと、その主人は、『私の息子なら、敬ってくれるだろう』と言って、息子を遣わした。

すると、農夫たちは、その子を見て、こう話し合った。『あれはあと取りだ。さあ、あれを殺して、あれのものになるはずの財産を手に入れようではないか。』そして、彼をつかまえて、ぶどう園の外に追い出して殺してしまった。

この場合、ぶどう園の主人が帰って来たら、その農夫たちをどうするでしょう。」

彼らはイエスに言った。「その悪党どもを情け容赦なく殺して、そのぶどう園を、季節にはきちんと収穫を納める別の農夫たちに貸すに違いありません。」

イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、次の聖書のことばを読んだことがないのですか。『家を建てる者たちの見捨てた石。それが礎の石になった。これは主のなさったことだ。私たちの目には、不思議なことである。』だから、わたしはあなたがたに言います。神の国はあなたがたから取り去られ、神の国の実を結ぶ国民に与えられます。

また、この石の上に落ちる者は、粉々に砕かれ、この石が人の上に落ちれば、その人を粉みじんに飛ばしてしまいます。」祭司長たちとパリサイ人たちは、イエスのこれらのたとえを聞いたとき、自分たちをさして話しておられることに気づいた。(マタイ 21: 33~45)

イエス様は、ぶどう園を自分勝手な目的のために使用する人々は、そのぶどう園に対するすべての権限を失うことになることになるとあらかじめ明言されました。

最初の教会会議

ふたりが話し終わると、ヤコブがこう言った。「兄弟たち。私の言うことを聞いてください。神が初めに、どのように異邦人を顧みて、その中から御名をもって呼ばれる民をお召しになったかは、シメオンが説明したとおりです。預言者たちのことばもこれと一致しており、それにはこう書いてあります。(そしてアモス 9:11, 12 から引用した) そこで、私の判断では、(使徒 15:13~15, 19)

ヤコブが話していました。ペテロではありませんでした。それなのにカトリック教会は、ペテロがリーダーであるという物語をどうやって思いついたのでしょうか？ カトリック教会が聖書を禁断の書リストに入れているのは、こんな事情があるからなのです。

そこで使徒たちと長老たち、また、全教会もともに、彼らの中から人を選んで、パウロやバルナバといっしょにアンテオケへ送ることを決議した。・・・彼らはこの人たちに託して、こう書き送った。「兄弟である使徒および長老たちは、アンテオケ、シリヤ、キリキヤにいる異邦人の兄弟たちに、あいさつをいたします。」(使徒 15:22~23)

使徒たち兄弟たちが団結して語りました。イエス様は、聖書が何を教えているか知ることができるように、使徒たちに知識のかぎを渡しました。使徒の働き 15 章で、つなぐこと・解くことが使徒たちによって実行されました。使徒 15 章は、アモス書 9 章 11~12 節を釈義するために、使徒たちが知識のかぎを使用したケースです。

教義を定める

使徒の働き 15 章に、かぎの使用法が明確に説明されています。彼らは何をつないだのですか？ 4 つの戒めを守りなさいということです。彼らは何を解いたのですか？ メシアが律法を成就したので、モーセ律法から人々を解いたのです。

彼らは教えを定義し、説明しました。「これはエレミヤが言わんとしたことです。これがアモスの語ったことです。今や私たちは知識のかぎを持っています。御言葉が理解できるようになったのです。ラビたちはメシアを拒否し、過ちに陥りました。しかし私たちには御言葉の権威が与えられています。私たちがつなぎ、解くのです。」

使徒たちはその権威を、民衆を縛って厳しい指導をするためには用いませんでした。間違った教義を正すために用いたのです。

使徒的権威はいつも教義に関係する

それはいつでも間違った教義を正すために用いられています。使徒的権威はいつも複数の人々によって発揮され、いつも教義に関することを扱います。

また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。もし聞き入れないなら、ほかにひとりかふたりをいっしょに連れて行きなさい。ふたりか三人の証人の口によって、すべての事実が確認されるためです。

それでもなお、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人か取税人のように扱いなさい。

まことに、あなたがたに告げます。何でもあなたがたが地上でつながら、それは天においてもつながれており、あなたがたが地上で解くなら、それは天においても解かれているのです。まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をつなげて祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。

ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。(マタイ 18:15~20)

文脈を見て下さい。これは、罪を犯している兄弟のところに行く場合についてであり、教義ではありません。もし、誰かが罪を悔い改めることを拒む場合、つないだり解いたりすることができます。それはどういう意味で、使徒たちはそれをどのように適用したのでしょうか？ 今日人々が適用しているような方法ではありませんでした。今日の用い方は、使徒たちが適用した方法とは違います。私たちは、使徒たちの教えというプリズムを通して、イエス様の教えや聖書のその他の教えを読みます。

使徒書簡は靈感を受けた注解書、神の注解書であると考えて下さい。書簡は使徒たちのプリズムです。聖書の他の箇所が何を教えているか、イエス様の教えが何を語っているか、明確に一番実用的に教えてくれます。

御体の中に継続する罪の取り扱い

あなたがたの間に不品行があるということが言われています。しかもそれは、異邦人の中にもないほどの不品行で、父の妻を妻にしている者がいるとのこと。それなのに、あなたがたは誇り高ぶっています。そればかりか、そのような行いをしている者をあなたがたの中から取り除こうとして悲しむこともなかったのです。私のほうでは（使徒として）、からだはそこにいなくても心はそこにおり、現にそこにいるのと同じように、そのような行いをした者を主イエスの御名によってすでにさばきました。あなたがたが集まったときに、私も、霊においてともにおり、私たちの主イエスの権能をもって、このような者をサタンに引き渡したのです。それは彼の肉が減ぼされるためですが、それによって彼の霊が主の日に救われるためです。（Iコリント5：1～5）

パウロは何をしたのでしょうか？ 我儘な信者をつなぐために権威を用いたのです。マタイ18章でつなぐこと・解くことが用いられたのは、どのような文脈でしたか？ もし人が罪を悔い改めようとしないなら、教会は、その人が将来回復することを期待しつつ、その人物をつなぐ権限を持っていました。

文脈を見て下さい。彼らは、回復のために魂にさばきを宣告しました。私たちは既に、イエス様が「つなぐ」と言う言葉——ギリシャ語の *deo*——を用いられた2つの異なる使い方を見てきましたが、それは今日の多くの説教者たちが勧める教えとは全く何の関係もありませんでした。使徒的権威は、教義を定めるため、そして、キリストの体の中の継続する不道徳と、非を認めようとしない強情な罪を取り扱うために存在します。

福音は解き放つ

夫のある女は、夫が活着ている間は、律法によって夫に結ばれています。しかし、夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。ですから、夫が活着ている間に他の男に行けば、姦淫の女と呼ばれるのですが、夫が死ねば、律法から解放されており、たとい他の男に行っても、姦淫の女ではありません。（ローマ7：2, 3）

全ての人類は罪と死の法則の下に活着ています。モーセの律法がそれを象徴しています。モーセ律法が何を表しているかを理解してください。ユダヤ人にはより大きな責任

があります。律法を書いたからです。ユダヤ人は神の御声を聞き、救いは初めに彼らに与えられました。ですから責任も初めに負わされたのです。

ここに風船があります。手を離すと、重力の法則が風船は下に落ちると教えてくれます。けれども、手を放す前にヘリウムガスを風船に詰めておくと、浮力の法則が風船を浮かばせるので、落ちることはありません。浮力の法則は重力の法則よりも強力で、重力の法則に取って代わります。

モーセの律法は、私たちが墮落した性質を持っていることを教えてくれます。律法には何も悪いところはありません。律法は、私たちにはメシアが必要だと教えてくれるのです。私たちには墮落を食い止めるための、より強力な法則が必要です。クリスチャンであっても罪を犯しますが、ノンクリスチャンが持っていない選択肢を持っています。私たちには浮力、ヘリウムガスがあるのです。私たちが罪を犯す必要はありません。聖霊がいるからです。ですから、ユダヤ人のように、私たちは罪に対してノンクリスチャンよりも大きな責任があります。律法は私たちの家庭教師です。救われるためにはメシアが必要だと教えてくれます。律法の目的は、私たちが律法を守ることができないと示すことなのです。福音は解き放ち、赦します。人々を罪と死の法則から自由にするのです。福音は解放します。

告解？

あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。(ヨハネ 20：23)

この御言葉によると、イエス様がローマカトリックの「告解」という秘跡を導入したという考え方はおかしいと判ります。聖書には「告解」などと言うものはなく、初代教会の教父たちによって実践されたなどと言う記録もありません。罪を聖職者に告白すると言うのはバビロンの習慣です。初代教会では、死人に対する祈りも、マリアへの祈りも、法王も存在しなかったのです。しかし、「告解」はありませんでしたが、悔い改めはありました。互いに悪い行いの赦しを請いましたが、司祭のところへ赦しを請いに行ったりはしませんでした。このようなものはすべて後からできたものです。それらは人間の発明であり、パリサイ人の教えと同じ理由から作りだされました。金と権力です。今日、超カリスマ派の教会が教義を発明しているのと同じ理由です。金と権力です。

人々を解放する

イエスは安息日に、ある会堂で教えておられた。すると、そこに十八年も病の霊につかれ、腰が曲がって、全然伸ばすことのできない女がいた。

イエスは、その女を見て、呼び寄せ、「あなたの病気はいやされました」と言って、手を置かれると、女はたちどころに腰が伸びて、神をあがめた。すると、それを見た会堂管理者は、イエスが安息日にいやされたのを憤って、群衆に言った。「働いてよい日は六日です。その間に来て直してもらうがよい。安息日には、いけないのです。」

しかし、主は彼に答えて言われた。「偽善者たち。あなたがたは、安息日に、牛やろばを小屋からほどき、水を飲ませに連れて行くではありませんか。この女はアブラハムの娘なのです。それを十八年もの間サタンが縛っていたのです。安息日だからとってこの束縛を解いてやってはいけないのですか。」

こう話されると、反対していた者たちはみな、恥じ入り、群衆はみな、イエスのなさったすべての輝かしいみわざを喜んだ。(ルカ 13：10～17)

悪霊の圧迫は、人々を縛ることができます。この女性は悪霊に付かれていたのではありませんでしたが、悪霊の圧迫に苦しんでいたのです。悪霊の圧迫が人を病気にさせるのです。そうです。癒しの賜物があります。

そうです。私たちは病人に油を注ぐことができます。そうです。私たちは祈ることができます。そしてイエス様がなさったことを、私たちにもすることができるのです。主が御手を彼女に置くと、女性はすぐに自由になりました。このような状況にあるなら私達には解放することができない、というわけでもありません。もっともイエス様は、父がなさることを見なければ何事もなさいませんでした。

力が存在した

それは、主が教えをなさっていたある日の出来事でした。そこに何人かのパリサイ人と律法の教師たちが座っていました。ガリラヤとユダヤのあらゆる村々とエルサレムから来た人々です。そして主の力が存在し、癒しを行いました(ルカ 5：17)。私たちは

癒しを祈り、油を注ぐことができます。もし罪のために病気になった人がいるなら、(ヤコブ 5:14~15 と詩篇 32:3~5 にあるように) その人が悔い改めるなら、病気は罪の結果だったので、消え去ります。

私たちは病人のために祈ることができますが、もし死の床から、あるいは車椅子から、あるいは棺から出てくるように誰かに命じようとしているなら、イエス様のようにデュナミス(ギリシャ語で「力」)が必要でしょう。

パウロは悪霊の圧迫から解放してくださるよう3回祈りました(Ⅱコリント 12:7~9)。神様はダメだと言われました。「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである。」神様は、パウロのためにこの状態のままにしておくと言われたのです。そのように、あなたにできることは、主がしなさいと言われたことだけなのです。

主は、私たちに取り扱えないほどの誘惑や問題を経験させることは決してありません。

あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。(Ⅰコリント 10:13)

あなたは祈り、悔い改め、救われることができます。本当に心の中で信じるなら、救われるのです。そこには神様の恵みがあります。そのように、いつも私たちのために備えられている恵みがあります。しかし、恵みによっては、どんな状況下でも備えられているというわけではありません。その状況で神様が導いて下さる方法というのがあります。私たちがつないだり解いたりできると思っても、あらゆる出来事において可能なわけではありません。

死から甦ったラザロ

すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたままで出て来た。彼の顔は布切れで包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」(ヨハネ 11:44)

この物語は、救いはどのように起こるかということの全体像を描写しています。私がイスラエルのベタニヤにいた時、そこはラザロが埋葬された場所でしたが、主がその理解を私に与えて下さいました。同時に、私は、自分で思っていたほど霊的に特別優れた存在ではなかったということがわかりました。と言うのは、ジョージ・ホィットフィールドは、主から 200 年前に同じことを教えられていたからです。

「その石を取りのけなさい。ラザロよ。出て来なさい。ほどいてやって、帰らせなさい。
(ヨハネ 11：39, 43, 44)」

これはミドラッシュです。私たちが救われていない人に伝道する時、私たちのしていることは石を取りのける事だけです。私たちは彼らがイエス様の声を聞くことができるようにしているだけなのです。救われていない人に、あなたの顔が真っ青になるまで語り続けても、彼らがイエス様の声を聞くまで、その伝道も役には立ちません。伝道している時、私たちにできる唯一のことは石を転がすことだけです。

わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っています。また、わたしのものは、わたしを知っています。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っていると同様です。また、わたしは羊のためにわたしのいのちを捨てます。

わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。わたしと父とは一つです。(ヨハネ 10：14～15、27～29)

私たちにできることは石を取り除くことだけです。救われていない人に伝道し、祈って下さい。でもそれだけです。そのうち、自分にできることは全部やり尽くしたという時が来ます。後は神様に任せて下さい。人の子だけが、死人を命へと呼び出すことができるのです。

まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。まことに、まことに、あなたがたに告げます。死人が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。それは、父がご自分のうちにいのちを持っておられるように、子にも、自分のうちにいのちを持つよう

にしてくださったからです。(ヨハネ5:24~26)

もしあなたがまだ生まれ変わっていないなら、すでに霊的には死んでいます。イエス様はあなたを死から命へ呼び戻し、あなたの罪を赦し、永遠のいのちを与えたいのです。人の子だけが死人をいのちへと呼び出すことができます。「ラザロよ。出て来なさい。」しかしラザロが出て来た時に、イエス様は言われました。「ほどいてやりなさい。」私たちは何をほどいてやるのでしょうか？ 弟子訓練、バプテスマ、カウンセリング。わかりますか？ **あなたがほどいてやるのです。**

これが「聖徒たちの交わり」です。私たちは皆、この世の荷物を抱えて神の御国に入ってきました。クリスチャンになった時は、霊的に圧迫され、あらゆる問題で情緒的に縛られた状態で到着したのです。ですから弟子化が必要なのです。

権威にある者たちのために祈る

「つなぐこと・解くこと」について、聖書的解釈と非聖書的解釈があります。もうおわかりのように、そのどれもが、ほとんどのペンテコステ派の教会が今日教えている事柄と何の関係もありません。福音を語るということがいつでも最も重要なことです(パウロは福音を語りました)。祈りと断食が2番目に大事です(エステルとダニエルは何をしましたか?)。そして3番目に、権威者たちのため、神の民の上に権威を持つ政治的指導者のためのとりなしと祈りが必要です。

そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。それは、私たちが敬虔に、また、威厳をもって、平安で静かな一生を過ごすためです。そうすることは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることなのです。神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。(Iテモテ2:1~4)

あなたは政治や政治家が好きではないかもしれませんが、もし彼らが私たちの祈りの影響を受けていないのなら、他のものから影響を受けるでしょう。

クリスチャンが影響力を失う

ドイツ第三帝国はいつ起こりましたか？ 福音的キリスト教が後退し、高等批評学が取って代わった時代です。ドイツ人は何をしましたか？ 彼らは文明全体を大量虐殺する駆逐業者、屠殺業者となりました。ドイツは退行し、キリスト教初期に起こった出来事と同じ事をしたのです。福音が語られなくなりました。教会が妥協しました。そして政府が悪い者の影響下に置かれたのです。

今英国では、再び異教の祭りが祝われ始めました。どこでですか？ ストーンヘンジ、グラストンベリーにおいてです。ドルイド僧とウイッカ（アングロ・サクソンの魔術）とクリスチャンになる前のブリテン人が異教祭事を行っていた、その同じ場所においてです。どのように呼ばれようが、そのような祭りをを行う者はドルイドの高僧と同じです。同じ場所で同じことが行われているのです。

福音の説教が（ジョージ・ケアリーののような）偽りの指導者によって妥協したものとなる時、古代の地域を支配する霊——もしその言葉を使いたいなら——が再浮上してきます。政府が悪と不敬虔の影響下に入ります。英国議会は表面的には「天におられる我らの父」を話題にしますが、内部にはイスラム教徒、フリーメイソン、それから他にも神様だけがご存じの者たちがいて、聖公会司教の任命に投票しているのです。（訳注：ジョージ・ケアリーは第103代カンタベリー大主教。彼が大主教であった時に英国国教会は女性司祭の叙任を認めた。ケアリーは同性愛者に司教任命の按手をし、イスラム教徒とのより深い対話呼びかけ、イスラム教との関係改善に奔走した。）

日本の会社の経営哲学は、将軍時代から続く古い神道に基づいています。神道はどこにでも関わっています。

まず初めに福音を語りなさい。2番目に、神の民は祈り、断食し、とりなしなさい。特に政治家たちのためにそうしてください。

悪を引き止めているもの

神様は悪を食い止めるために、人間の政府を定められました。もし政府が私たちの祈りによって影響されていないのなら、政府は必然的に悪のための道具となってしまうで

しょう。初期のクリスチャンたちは、ローマ皇帝のためにさえ祈ったのです。ですから福音が皇帝の支配下で広まることができたのです。

反キリストが公に登場するのはいつでしょうか？ 定められた3年半の間、歴史の支配権がサタンの手に引き渡されるようになるのは、いつでしょうか？

あなたがたが知っているとおりに、彼がその定められた時に現れるようにと、いま引き止めているものがあるのです。不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。(Ⅱテサロニケ2:6~12)

反キリストの霊は既に存在します。けれども、引き止めるものがいて、取り除かれる時まで引き止めています。聖霊はいつまでも、今と同じように働かれるのではありません。恵みが終わる時が来ます。ディスペンセーション神学にのめり込まないようにしなければいけません。恵みの時代が終わる時が来ます。黙示録において、神様の人間に対する取り扱い方は、旧約時代の方法に戻ります。怒りと裁きです。恵みに終わりが訪れます。聖霊の力が、未信者に罪を悟らせ、福音宣教のために教会を強めることをやめ、てしまう時代が来るのです。

真理の御霊

しかし、ひとたび聖霊が教会の中の罪を悲しまれたなら、ひとたび光が薄暗くなり、塩が塩気を失ったなら、私たちに何がおこるのでしょうか？ 邪悪が復活します。教会時代が継続し続けることができるのは、罪を悟らせる聖霊の力があるからです。ひとたび聖霊が悲しんで退いてしまわれるなら、この世のシステムに潜む本質的悪が、すぐに再び台頭してくるのです。

もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。その方は、真理の御霊です。(ヨハネ 14:15~17)

しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わします。その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。また、義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。

わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。

あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。(ヨハネ 16:7~11, 33)

悪を引き止めることができるのは、政府要人のために神の民が捧げる祈りと断食、そして福音宣教なのです。

悪を引き止める

今日、この世界で悪を引き止めることができるものは3つだけです。

1. 福音を語ること。
2. 祈り、断食、特に政府指導者たちのためのとりなしの祈り。
3. 罪を悟らせる聖霊の力。

これが、「つなぐこと・解くこと」と言う道具の正しい使い方です。もし何かしたければ、正しい道具を使ってください——フォークを置いてスプーンを手にしてください。